

高速インメモリデータ管理ソフト「Primesoft Server」を活用した 大和証券の新オンライントレードシステムが本格稼働

～ 国内最大級となる Linux ベースのシステムに刷新～

大和証券株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:日比野隆司、以下 大和証券)、株式会社大和総研(本社:東京都江東区、代表取締役社長:深井崇史、以下 大和総研)及び富士通株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:山本正己、以下 富士通)は、大和証券のオンライントレードシステム「ダイワのオンライントレード」のインフラ基盤を刷新しました。

新システムは、オープンソースソフトウェア Linux(注1)で構築した国内最大級のオンライントレードシステムであり、2011年10月から段階的に新システムへ移行し、2012年4月より本格稼働しています。

インフラ基盤には東京証券取引所の株式売買システム「arrowhead(アローヘッド)」で実績のある富士通製高速インメモリデータ管理ソフトウェア「Primesoft Server(プライムソフトサーバ)」(注2)等を採用し、高速処理の実現だけでなく、アクセス集中時の安定性やセキュリティを重視した構成としています。

これにより「ダイワのオンライントレード」は、お客様により安心してご利用いただける高品質・高信頼なサービス提供が可能となっています。

大和証券は、1996年4月1日に国内初となるインターネットを利用した証券取引サービス「ダイワのオンライントレード」を開始し、現在240万人を超えるお客様にご利用いただいています。

【新システムの特長】

1. セッション管理機能に高速インメモリデータ管理ソフトウェア「Primesoft Server」を採用

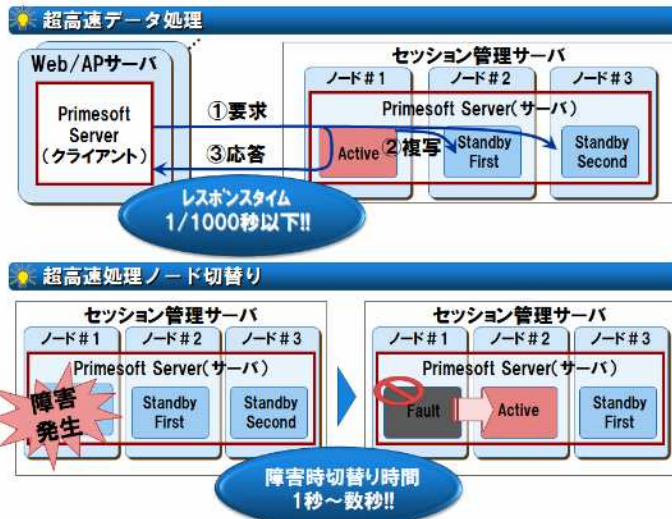
オンライントレードシステムで重要となるセッション管理機能(注3)には高い可用性と拡張性を備え、マイクロ(百万分の一)秒レベルの処理を実現する「Primesoft Server」を採用しています。

本ソフトウェアの採用は「arrowhead」に続くもので、大和証券、大和総研では、さらなる可用性を追求し、サービスを継続したまま障害復旧箇所の再組み込みが可能な機能を追加しました。

✓メモリ上のデータへ超高速アクセスすることで、高いレスポンス性能とスループット性能を実現し、アクセス集中時にも安定した性能を発揮

✓メモリ上のデータを3重に保持しており、障害発生時は数秒でノードを切替え、サービスを継続したまま障害箇所の保守、再組み込みが可能

✓セッション管理の処理量増加に対してアプリケーションの修正を行うことなく能力増強ができるため、安全かつ迅速なシステム拡張が可能

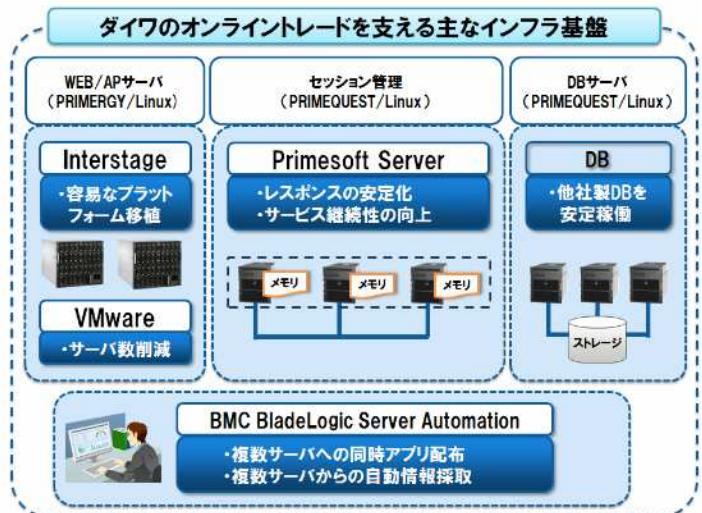


2. 高信頼な国内最大級の Linux オンライントレードシステム

大和総研では、ハードウェアに依存しないシステム環境を目指してオープンソースソフトウェア Linux による構築を推進しています。

今回はその一環で、商用 UNIX をベースとしていたオンライントレードシステムを Linux ベースに刷新しました。

大和ネクスト銀行のネットバンキングシステムをはじめとする Linux の大規模プロジェクトの経験等、富士通、大和総研のオープン系システム構築のノウハウを活かし、商用 UNIX から Linux への安全な移行(注4)を実現しました。



3. 仮想化技術の利用等により運用保守コストを削減

今回のシステム刷新では仮想化技術の利用等が、運用保守コストの削減(3割)に貢献しています。

- ✓ 仮想化技術を利用し、各種サーバをブレードサーバへ集約
- ✓ Linux 等の汎用製品、インフラ標準基盤の適用により、運用保守業務を効率化
- ✓ 「BMC BladeLogic Server Automation」(注5)等の採用により、運用保守業務の自動化を実現

【 関連Webサイト 】

- 大和証券サイト : <http://www.daiwa.jp/>
大和総研サイト : <http://www.dir.co.jp/souken/index.html>
富士通サイト : <http://jp.fujitsu.com/>

< 製品紹介 >

- Primesoft Server : <http://software.fujitsu.com/jp/primesoft/>
BMC BladeLogic Server Automation : <http://software.fujitsu.com/jp/bladelogic/>

【 商標について 】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

【 注釈 】

- (注1) レッドハット株式会社(<http://jp.redhat.com/>)の「Red Hat Enterprise Linux (レッドハット エンタープライズ リナックス)」を採用。
(注2) データをハードディスクに保存せずに、メモリ上で直接保存・管理するため、高速なデータ処理が可能。
(注3) ユーザ認証やプロファイルを管理する仕組み。アクセスする度に必要となるため、高速性と高可用性が求められる。
(注4) 標準技術を用いた富士通製「Interstage Application Server (インターステージ アプリケーション サーバ)」を採用することで、大幅な修正を行わずに既存アプリケーションの移行が可能となった。
(注5) BMCソフトウェア株式会社の「BMC BladeLogic Server Automation (ビーエムシー ブレードロジック サーバ オートメーション)」は、富士通が販売・サポートを行うマルチベンダー・マルチプラットフォーム環境に対応する運用管理自動化ソフトウェア。アプリケーションやパッチの配布、構成情報の採取作業等を複数のサーバに対して同時に自動実行できるため、迅速かつ正確なメンテナンス作業が可能。